

多摩部の都立公園では、レンジャーが自然を守り、その素晴らしさを伝えています。

多摩部の公園で見られる秋の花



シソ科

1.アキノタムラソウ(秋田村草)

- 特徴：茎の断面は四角い
- 花の大きさ：約1cm

花期は6~10月と長く、細長く伸びた花穂に青紫色の花を多数付けます。花は1箇所から複数個が輪状に付き、白くて長い毛が多数生えています。



ハマウツボ科

2.ナンバンギセル(南蛮煙管)

- 特徴：花はキセルに似た筒型
- 花の大きさ：約3cm

7~9月に赤紫色の筒型の花が咲きます。ススキ等のイネ科の根に寄生し、栄養を吸収して生育します。そのため、葉緑体を持っておらず、全体的に白いです。



フウロソウ科

3.ゲンショウコ(現の証拠)

- 特徴：花びらにたて筋が通る
- 花の大きさ：1~1.5cm

7~10月に白や赤の花が咲きます。西日本では赤が、東日本では白が多く見られます。実は5つに破れつつ種を飛ばし、その姿はお神輿にも例えられます。



秋

マメ科

4.ハギ(萩)

- 特徴：花は数個まとまって咲く
- 花の大きさ：1~1.5cm

7~10月に赤紫色の花が咲きます。根に根粒菌と呼ばれる菌が共存していて、栄養素を作りだしています。そのため荒地でも育つことができます。



秋

マメ科

5.クズ(葛)

- 特徴：花穂が直立し、下から咲く
- 花の大きさ：約2cm

花期は8~9月で、林縁や土手等に多く、荒地にもよく見られます。生命力が強く、時折、樹木や建物に覆いかぶさるように繁茂します。



秋

オミナエシ科

6.オミナエシ(女郎花)

- 特徴：花は花茎の先に散房状
- 花の大きさ：3~4mm

8~10月に黄色の小さい花が多数咲きます。日当たりのいい法面等で多く見られますが、適度な草刈りが行われないと日照不足により生育が悪くなります。
*花が咲く順番にならんでいます。



キク科

7.オヤマボクチ(雄山火口)

- 特徴：花は完全に開ききらない
- 花の大きさ：4~5cm

花期は8~10月で、山地の林縁等の日当たりのいい環境で見られます。かつては葉裏の毛を火起こしの火口(ほくち)として用いていました。



ツリフネソウ科

8.ツリフネソウ(釣舟草)

- 特徴：舟を吊り下げたような形
- 花の大きさ：3~4cm

花は8~10月頃に咲き、花の奥には蜜が貯まっているため、多くのハナバチやガの仲間が蜜を吸いにやってきます。種は熟すと弾け飛んで拡散されます。



秋の七草



「秋の野に 咲きたる花を 指折り かき数ふれば 七種の花
萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また 藤袴 朝顔の花」

この詩は、奈良時代の歌人「山上憶良」が詠ったもので、万葉集に収録されています。現在の秋の七草はこの詩をもとに選定されています。

詩中の尾花は「ススキ」の別名であり、朝顔は現代の「キキョウ」を指していると言われています。似たもので「春の七草」がありますが、秋の七草は花の美しい見た目を観賞して楽しむのが主な目的であり、食べることは想定していません。

秋：秋の七草



タデ科

9.ミゾソバ (溝蕎麦)

- 特徴：茎や葉に細毛がある
 - 花の大きさ：4~7mm
- 水田や用水路で多く見られ、8~10月に枝先にまとまって花を付けます。葉の形が牛の頭にも見えることから「ウシノヒタイ」と呼ばれることもあります。



キク科

10.オケラ (朶)

- 特徴：花は白くて丸型
 - 花の大きさ：1~1.5cm
- 日当たりがよく乾燥した環境で多く見られ、9~10月に花が咲きます。花は魚の骨に似た苞葉に包まれ、苞葉は花が終わってもしばらく残ります。



キク科

11.カシワバハグマ(柏葉白熊)

- 特徴：茎は直立して分かれぬ
 - 花の大きさ：1.5~3cm
- 花は9~10月に咲き、茎上部に数個まとまって付きます。真冬に氷点下になると、茎から染み出した水分が凍り、「氷の花」を形成します。



キキョウ科

12.ツルニンジン (蔓人參)

- 特徴：花は外が白で内が赤紫色
 - 花の大きさ：2~3.5cm
- 9~10月に側枝の先に釣鐘型の花が咲きます。つる性植物で、根が朝鮮人參に似ることからこの名前が付けました。



セリ科

13.ノダケ (野竹)

- 特徴：毛が無く、茎は滑らか
 - 花の大きさ：2~3mm
- 9~10月ごろに、赤紫色の小さな花が多数咲きます。農耕地周辺の湿った環境等で見られます。茎がスラッと伸び、竹に似てることから名前が付けました。



キク科

14.アキノキリンソウ(秋麒麟草)

- 特徴：花は穂状で多数付ける
 - 花の大きさ：約1.5cm
- 花期は9~11月で、かつては秋を代表する黄色い花でしたが、近年は外来種である近縁のセイタカアワダチソウに追いやられ、生息数が減っています。



キク科

15.タイアザミ (大薊)

- 特徴：花は下を向くことが多い
 - 花の大きさ：約1.5cm
- 花期は9~11月で、秋頃にもっとも普通に見られるアザミの仲間です。ナンブアザミの変種とされ、関東地方周辺でのみ見られます。



キキョウ科

16.ツリガネニンジン(釣鐘人參)

- 特徴：切ると白い乳液が出る
 - 花の大きさ：1.5~2cm
- 花期は9~11月で、名前の由来は花が釣鐘型をし、根が朝鮮人參に似ることから付けられました。葉は細長く3~5枚が輪状に付くのが特徴です。



リンドウ科

17.リンドウ (竜胆)

- 特徴：葉は細長く、茎を抱く
 - 花の大きさ：3~4.5cm
- 9~11月に青紫色で鐘形の花が咲きます。草全体に苦味成分を含んでおり、かつては根っこを生薬の原料として利用していました。



キク科

18.ヤクシソウ (薬師草)

- 特徴：蕾は上向き、花は下向き
 - 花の大きさ：約1.5cm
- 10~11月に枝先や上部の葉腋に黄色の頭花を数個ずつ付けます。崩壊斜面等の裸地に真っ先に侵入してくる花で、パイオニア植物と呼ばれています。

* 花が咲く順番にならんでいます。